

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	12月～08年2月	9月	10月	11月
長期国債10年物(%)	1.20 ～1.60	1.500 ～1.725	1.555 ～1.745	1.395 ～1.670
円ドル相場(円)	105 ～113	112.60 ～116.47	113.25 ～117.83	107.29 ～115.57
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,300 ～1,600	1,506.19 ～1,622.49	1,539.09 ～1,679.71	1,417.47 ～1,638.71

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

景気は以下の要因により、やや調整色が強まる展開

- ・米国景気を持ち直しペースが緩やかなものにとどまることによる、対米輸出の回復の遅れ。
- ・原油等原材料高と低価格競争の板挟みとなっている中小企業の業績低迷。
- ・建築確認の厳格化による住宅を中心とする建設投資の減少傾向。
- ・所得環境の本格回復が難しい状況やガソリン高、家計負担の増加傾向による、家計の実質購買力低下。
- ・物価は、原油高等を背景に上昇に向かうものの、景気回復モメンタムの弱さやデジタル分野の価格低下により、実質的な騰勢は微弱なものにとどまる見通し。

(米国)

景気は住宅、消費中心に減速が持続する。

- ・住宅は、高い在庫水準や、サブプライムローン問題に起因する融資基準厳格化により販売の伸びが見込めず、着工の持ち直しには時間を要する。
- ・個人消費は、サブプライム問題やそれに伴う信用収縮、ガソリン高、住宅価格調整による資産効果の減衰などの要因を通じて消費者マインドは低下基調で、これまで比較的底堅かった雇用も先行きの悪化傾向を示唆する指標もあり、消費は弱めの動きが続く。
- ・企業部門は、在庫調整の一巡や新興国の高成長、ドル安の持続を背景とする輸出の堅調により、生産活動は底堅い動きを維持し、景気を下支えする。
- ・物価は、失業率、設備稼働率等、資源利用率の高止まりから上昇圧力がかかるものの、次第に住宅市場の減速傾向が帰属家賃の上昇圧力を緩和することや、これまでの景気減速を遅延的に反映する形で、消費者物価コア指数の伸び率は、非常に緩やかながら低下傾向で推移する見通し。

株

式

(日本)

レンジの動き

- ・企業業績は、海外経済拡大による増収などから07年度は10%程度の経常増益が予想される。一方、08年度においても一桁前半程度の増益は見込まれる。
- ・バリュエーション面において、予想配当利回りは長期金利並みの水準まで上昇するなど、割安感は強まっており、下値は限られる。一方、米サブプライム問題から派生した米国ABC P(資産担保コモディティペーパー)市場の縮小や各種信用スプレッドの再拡大に歯止めがかからず、信用収縮への懸念や、今後、実体経済への波及の懸念がより強まるとともに、リスク再評価による株価下押し圧力は当面払拭されず、レンジ内での推移を予想する。

(米国)

レンジの動き

- ・住宅部門の減速が、個人消費を中心とした米国経済全体に与える影響や、サブプライムローン問題を背景とした、信用収縮の拡大等の不透明要因が意識されやすいことから、株価は当面ボラティリティの高い展開が予想される。
- ・割安なバリュエーションや潤沢なキャッシュフローを背景とした増配や自社株買いの増加が株価の下支えとなるものの、サブプライム問題によりM & A資金の調達はやや困難となることやスプレッドの拡大による収益への懸念から上値が抑えられる可能性が高いと思われる。

債 券 ・ 為 替

(債券)

日本: 長期金利は当面レンジの動き。

金融政策については、日銀は、当面米欧と市場安定化のために共同歩調を取らざるを得ず、また、国内要因でも賃金回復の遅れや住宅投資の下ぶれ、物価上昇のスピードから見た政策対応の時間的余裕等を考慮すると、利上げは当分行えない。量的緩和解除前の水準まで調整した長期金利は、低下余地が限られるものの日米の景気下ぶれ懸念を意識して、レンジ内での動きが続く見通し。

米国: 長期金利は当面レンジの動き。

金融政策については、FRB(米連邦準備制度理事会)は、原油高ドル安の進行もあり、当初、インフレへの配慮から連続的な利下げには慎重なスタンスであったが、リセッション、信用収縮懸念の緩和に向けて、1 - 3月期にも、利下げを継続する見通し。長期金利は、サブプライム問題による根強い「質への逃避」や実体経済への悪影響を見極めるかたちで、当面は4%程度でのレンジでの推移が続く見通し。

(為替)

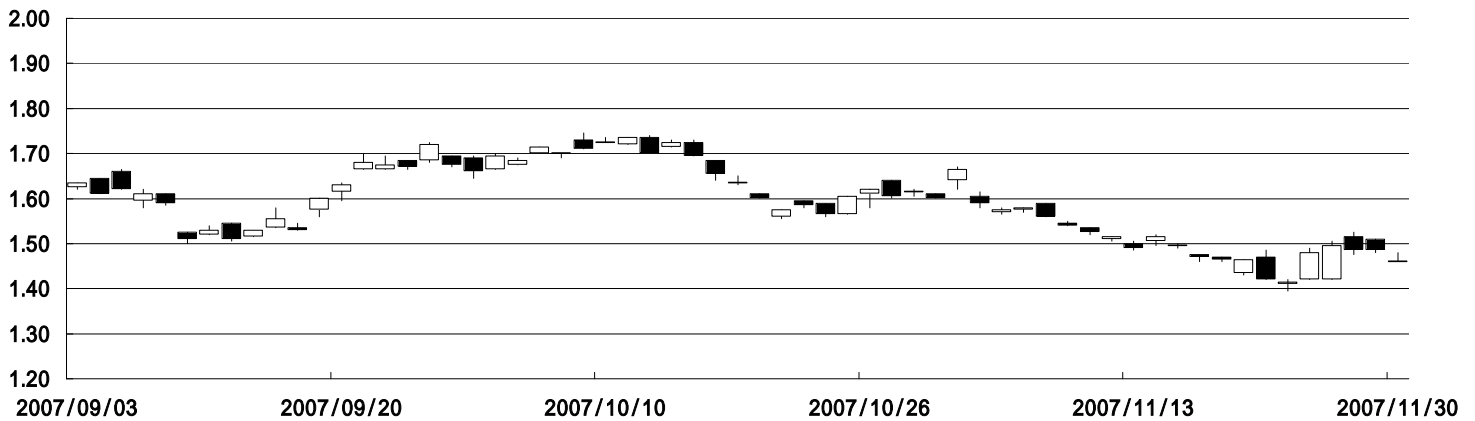
円/ドルレートは当面レンジの動き。

米国経済減速に伴う追加利下げ期待、信用収縮への懸念の残存、投資家のリスク再評価が進むなかで、大規模な円キャリー取引は期待薄なことから、ドルの上値余地は限られる。一方、日本の緩やかな景気調整や利上げ期待の低下により円においても、強含む材料も乏しく当面レンジでの推移を見込む。

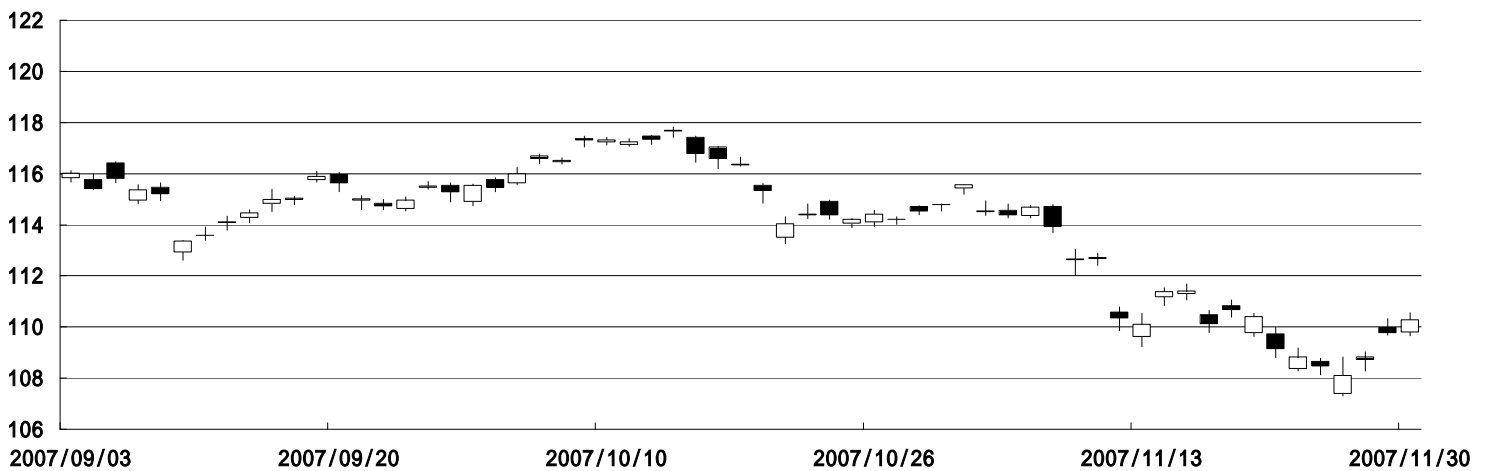
- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

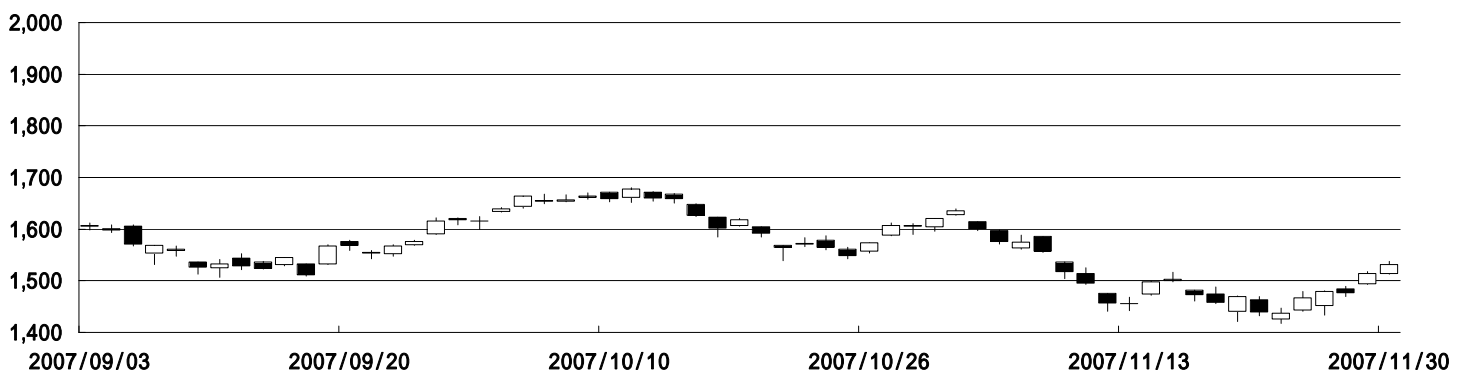
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。